

飯 豊

いいで町で 農業しませんか？



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県

「飯が豊かな町」で「いいでまち」と読めます。

その名の通り、稲作をはじめ様々な農作物が作られています。

人のぬくもりを感じることのできる、自然があふれる町で、農業の第一歩を踏み出してみませんか。



絵 / ていひろえ

随時、現地見学や農業研修が可能です。

様々な支援策がありますので研修・独立就農などお気軽にご相談ください。

飯豊町地域で育てる担い手協議会

◆飯豊町の概要

飯豊町は山形県の南西部に位置し、総面積の8割以上を山林が占める緑豊かな町です。白川の水と肥沃な耕地を利用した農業地帯で良質米を生産し、肉用牛の産地でもあります。降雪期間は11月から3月、平野部では1m程度、山間部では3～4mの積雪となることもあり、特別豪雪地帯に指定されています。

- ・人口 6,776人
- ・世帯数 2,337世帯 ※令和3年3月現在
- ・町の木：もみじ
- ・町の花：ゆり

◆飯豊町の特徴

田園散居集落

豊かな田園の中に屋敷が点在し、各家々では冬期間の厳しい北西風や雪を遮るため、屋敷の西側に“屋敷林”を植えました。この“屋敷林”は全国的にも数少なく、飯豊町の特徴的な景観を形成しています。



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県

「日本で最も美しい村」連合

田園散居集落、中津川地区の里山風景・里山文化、飯豊連峰の3つが地域資源として認定され、飯豊町は日本で最も美しい村連合に加盟しています。小さくても輝くオンリーワンを持つ町として誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であるために活動しています。

*日本で最も美しい村連合とは
フランスで最も美しい村の活動を手本とし、失ったら二度と取り戻すことのできない日本の農山村の景観や環境・文化を守ることを活動目的として、2005年に7つの村からスタートしました。飯豊町は2008年に加盟し、現在では63の町村地域が加盟しています。

SDGs ～世界を変えるための17の目標～

2018年6月15日、飯豊町は政府が創設した「SDGs 未来都市」に選定されました。国際的テーマであるSDGsの基本的な理念である「誰一人取り残さない社会の実現」は、「住民主体のまちづくり」をまちづくりの原点としている本町が目指すべき姿であります。今後も町の全ての事業について、多様な主体と連携しながら、地球上で生きる者の責任として常にSDGsを意識した持続可能なまちづくりを目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



INTERVIEW

先輩就農者インタビュー

伊藤 儀宝 さん

就農の動機

祖父の代から家畜商を営む農家に生まれ、子供の頃から牛や田んぼに慣れ親しんで育ってきました。稲と動物のアレルギーがあり、高校卒業後は一般企業に就職しましたが、サラリーマン生活に疲れを感じ始めた頃、代々受け継がれてきた農業をやりたい、生まれ育った故郷の「農業」を守りたいという思いが強くなり転職を決断しました。実家に戻り父の元で約3年間修行した後、2010年に父の後を継ぐかたちで新規就農しました。現在、弟と母、スタッフ1名の4名体制で水稻・飼料作物を合わせて21haのほか、米沢牛の肥育牛約200頭、繁殖牛約20頭、仔牛約10頭を飼養しています。

実際に就農してみた

「自分の都合ではなく、牛の都合で暮らせ」と父が良く言っていました。動物相手ですから休みたい時に休むことのできない仕事ではあります。一方で、サラリーマン時代には味わえなかった「育てる喜び」を実感できる仕事でもあります。2017年の「米沢牛枝肉共進会」で、私の育てた牛がチャンピオンに選ばれました。485kgの黒毛和種の雄牛が、平均単価の1.65倍の総額268万6900円で取引されました。イメージ通りに良く育ち、購入して頂いたお肉屋さんや食べてくれた方々から「良かったよ」と評価された時はとにかく嬉しいの一言です。地域の誇りでもある「米沢牛」というブランド牛を育てていることも、やりがいにつながっています。

今後の目標

飯豊町は、山形県を代表するブランド牛「米沢牛」の生産量の4割を占める産地であり、ブランド米「つや姫」の産地でもあります。しかし、高齢化などの理由で農業仲間が減少している現状を考えると、不安でしかないというのが正直な気持ちです。そこで、農業に興味のある人が「職業選択の一つ」として新規就農できるよう、雇用の受け皿として法人化を予定しています。スタッフが増えることで働きやすく休みやすい環境づくりも可能になります。そして、チャンピオン牛をつくる名人だった亡き父の牛の味を超え、さらに美味しい牛をつくるのが最大の目標です。



INTERVIEW

先輩就農者インタビュー

三澤 優治 さん

就農の動機

関東で10年ほど会社員をしていましたが、以前から「いつかは農業をやってみたい」という気持ちがありました。農業への転職は収入面の不安がありましたが、就農イベントに参加した際、専業で生活できるビジョンを見せてくれたのが飯豊町でした。農業体験で初めて訪れた飯豊町で、役場や体験先など地域の方の親切で温かい対応に心動かされ、家族4人での移住を決意しました。雇用就農というかたちで約1年間、作物の栽培方法や農業経営などを学び、2019年4月にハウス4棟76aで念願の独立就農を果たしました。現在は妻と2人で、トマト、きゅうり、ブロッコリー、わさび菜を栽培しています。

実際に就農してみた

自分で計画を立て実践し、1年サイクルで結果が出るこの仕事に面白さを感じています。収穫のピーク期は朝から晩まで作業が続くこともありますが、その分収入も増えますので苦ではありません。栽培方法など分からないことを教えてくれたり、ハウスの水はけを良くするためにわざわざ重機を持ってきて溝を掘ってくれたり、困った時は近所の方や元就職先の方が助けてくれるので、失敗を恐れずに挑戦できています。今年は地元のマルシェにも出店し対面販売を経験しましたが、実際に食べた方から「美味しかったよ」と声をかけていただいたことも大きな励みになっています。



今後の目標

まずは、安心して「美味しい」と喜んで食べて頂ける作物を安定して育てられるよう技術を磨いていき、安心の土台を構築していく中で、以前からやりたいと思っている作物の成長と自身の成長をリンクさせた「自己啓発型農業体験」をやりたいと考えています。県内外の人とのかかわり、ふれあいを増やしていく中でファンを創造し、商品のブランド化や法人化にも挑戦出来たらなと思っております。

飯豊町では役場の方も積極的に相談に乗ってくれ支援して下さるので、「やりたい」と思ったことには積極的に挑戦していきます。



山形県飯豊町で農業しませんか？

完全オーダーメイド型農業体験



宿泊費
全額負担

片道分
交通費助成
(上限1万円)

体験に使用
する長靴や手袋
等の貸出

❖ アットホームな雰囲気、気軽に楽しく！

❖ やってみたい農作業を
自分の都合のいい日程で行うことができる！

❖ 移住した際の生活がイメージできるよう、
日用品や食料品のお店、学校や病院などもご案内！

❖ 実際に新規就農した先輩から話を聞くことができる！



注意 ・受入農家とのマッチング状況によってご希望に添えないことがあります。
・短期体験実施希望日の2週間前までご連絡ください。

●農業短期体験をご希望の方は下記担当までお問合せください。

飯豊町地域で育てる担い手協議会事務局（飯豊町役場農林振興課内）

電話：0238-87-0524 FAX：0238-72-3827

E-mail：i-nouchi@town.iide.yamagata.jp



山形県飯豊町

☆飯豊町でできる農業・地域の行事

	水 稲	アスパラガス	ミニトマト	きゅうり	啓翁桜	地域の行事
1月					箱詰め・出荷 切り枝収穫	雪かき(除雪) やははえろ
2月					箱詰め・出荷	雪かき(除雪) 中津川雪まつり
3月					箱詰め・出荷	
4月	育苗管理		定植準備 定植 整枝・誘引	定植準備		
5月	田植え	収穫出荷 立茎作業	整枝・誘引	定植		水没林 さなぶり
6月	畦草刈 作溝	収穫出荷 立茎作業	収穫・箱詰め 整枝・誘引	つるあげ 収穫・調製		笹巻・ゆべし作り どんでん平ゆり園
7月	生育調査 作溝	収穫出荷	収穫・箱詰め 整枝・誘引	収穫・調製 ほ場管理		獅子舞 SNOWえっぐ フェスティバル
8月	生育調査 畦草刈	収穫出荷	収穫・箱詰め 整枝・誘引	収穫・調製 ほ場管理		獅子舞
9月	収穫	収穫出荷	収穫・箱詰め 整枝・誘引	収穫・調製 ほ場管理		獅子舞 めざみの里まつり
10月	収穫	茎葉除去		後始末		
11月		茎葉除去	後始末			いいで秋の収穫祭
12月					切り枝収穫	雪かき(除雪)

☆作目ごとの研修プログラム

	水 稲	ミニトマト	夏秋きゅうり
	研修内容	研修内容	研修内容
1月	作業計画の作成 経営分析	栽培計画作成 労働計画作成	栽培計画作成 労働計画作成
2月	肥料の種類と特徴 除草剤の種類と特徴	資金繰り表の作成	施肥設計 資金繰り表の作成
3月	播種準備	施肥設計	
4月	播種準備と播種 育苗管理	定植準備（ベットづくり） 定植	播種 接ぎ木
5月	本田づくり 移植・水管理 除草剤の使用について	病虫害防除 つるあげ・側枝除去 ホルモン処理	ほ場づくり 定植
6月	初期生育の確保 作溝・中干し（生育調節） 病虫害防除	収穫・誘引・摘葉 病虫害防除	整枝・摘葉 病虫害防除 収穫・出荷調整
7月	追肥 病虫害防除 生育調査・生育診断	収穫・誘引・摘葉 病虫害防除 温度管理	整枝・草勢判断と対応策 病虫害防除 収穫・出荷調整
8月	病虫害防除 水管理	収穫・誘引・摘葉 病虫害防除 温度管理	整枝・摘葉 病虫害防除 整枝・草勢判断と対応策
9月	収穫期の判定 収穫・出荷調整	収穫・誘引・摘葉 病虫害防除 摘心	整枝・草勢判断と対応策
10月	収穫・出荷調整	裂果防止 収穫・誘引・摘葉 病虫害防除	残渣処理
11月	機械のメンテナンス	残渣処理 堆肥作り 栽培実績整理	土づくり 栽培実績整理
12月	次年度の作付計画作成	土づくり 次年度の計画作成	次年度の計画作成

水 稲

1. 栽培暦

月 旬	4			5			6			7			8			9			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育期間 区分	浸種		播種期		移植期			有効分げつ終止期			最高分げつ期			出穂期			刈取期		
	育苗準備	播種	育苗期	活着期	有効分げつ期			無効分げつ期	幼穂形成期		穂のり期	出穂開花期	登熟期						
水管理	日中浅水・夜間かんがい 中干し 間断かんがい 幼穂形成期 幼穂形成期追肥 出穂30日後落水																		
施肥 土壌管理				基肥	耕起	代かき				作溝	幼穂形成期追肥						早期落水防止		

2. 特 徴

- (1) 地域の土壌、気象に合わせた栽培体系をとる。
- (2) 労力配分等にも配慮し、品種の組み合わせをする。
- (3) 生育に合わせ、浅水、深水管理を使い分ける。

3. 栽培のポイント

- (1) 健苗育成。
- (2) 適期移植。
- (3) 中干しと間断かん水で根の活力向上。
- (4) 出穂期に近い追肥は食味低下の原因となるので留意する。
- (5) 水管理で登熟向上を図る。
- (6) 出穂後、30日間は水を切らさない。
- (7) 積算気温を参考に、適期刈取りをする。



ミニトマト (ハウス長期どり栽培)

1. 栽培暦

月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	定植準備			△定植			収穫始									摘心			収穫終了			後始末					
				← 誘引 →																							
				← 側枝除去 →																							
				← ホルモン処理 →																							
						← 病害虫防除 →																					

2. 特徴

- (1) 保温、裂果防止と病害発生予防のため、パイプハウス等の施設栽培となる。
- (2) 収穫・調整作業に多くの労力を要するので、選果機を利用しながらの労働力にあった規模で栽培する。
- (3) 定植苗の購入を前提としている。

3. 栽培のポイント

- (1) 排水が悪いと生育不良になるため、排水が良い畑を選び、定植前に必ず排水対策を徹底する。
- (2) ハウス内の温度は15～26℃の範囲を目標とし、適宜換気して管理する。
- (3) 15℃以下では生育が遅れ、果実の肥大・着色が悪くなるので、春・秋の低温期には二重カーテンをするなどして保温に努める。
- (4) 一般に着果性は良く、マルハナバチで良く着果するが、低温期や高温期に着果率が低下することがあるのでホルモン処理を行うと良い。
- (5) ミニトマトは多くの花が咲くため、草勢に応じて花房の先端部を摘み取り、着果数を制限する。
- (6) かん水は生育初期は控えめにし、果実肥大に伴いかん水量を増す。秋季はかん水量を徐々に控えるが、裂果防止のためほ場の水分を一定に保つようにする。
- (7) 生育期間が長いので追肥量を調整しながら草勢のバランスをとる。



アスパラガス (二期どり)

1. 栽培暦 (春、夏秋どり栽培)

月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
(1年目)	は種						定植						株養成												茎葉刈取り マルチ除去 後片付け		
(2年目)	消雪作業			春肥施肥			春どり収穫			支柱立て 立茎 基肥施肥 培土			病害虫防除												茎葉刈取り 後片付け		
(3年目)	消雪作業			春肥施肥			春どり収穫			支柱立て 立茎 基肥施肥 培土			病害虫防除												茎葉刈取り 後片付け		
													かん水・追肥														
													かん水・追肥														

2. 特徴

- (1) アスパラガスは人気野菜のひとつで、露地野菜としては比較的収益性が高く、栽培技術は果菜類などと比較すると易しい。
- (2) 二期どり栽培は、春に短期間（4月末～5月末）収穫した後に立茎し、株養成しながら7～9月に収穫する作型で、春どり栽培より収量が多く、収益性が高い。
- (3) 堆肥投入等による土づくりや排水対策を行うことで転作地への導入が可能である。

3. 栽培のポイント

- (1) ほ場条件が収量に大きく影響するため、暗きよや明きよなどの排水対策を徹底し、かん水設備等の準備をしておく（水の便の良いほ場を選定する）。
- (2) 膨軟で通気性、排水性、保水性が良好な土壌が適するため、植え付け前に堆肥の投入（10t以上/10a）等による土づくりと深耕を徹底する。
- (3) 株養成中の生育が、次年度の収量に影響するため夏から秋（夏秋どり期間中）の管理をしっかり行う（病害虫防除、追肥、倒伏防止等）。

4. 導入の際の注意点

- (1) アスパラガスは、過湿により根腐れや土壤病害を発生しやすいことから、排水不良ほ場での作付けは避ける。
- (2) 収穫のほか、整枝や除草に労力を要するため、適正規模（労力2人で30a程度）を目安に徐々に拡大していくようにする。
- (3) 強い連作障害があることから過去に栽培したほ場での作付けは行わない。



ぶどう 「シャインマスカット」

1. 栽培暦（短梢剪定・平行整枝栽培）

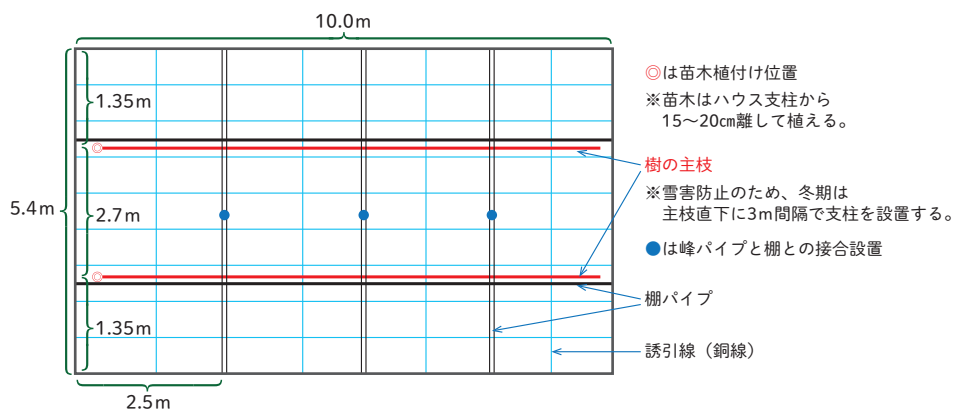
月	4		5		6		7		8		9		10		11		
旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	← ハウス管理 (防霜・保温)		← 芽かき		← 新梢管理		← 新梢管理		← 新梢管理		← 収穫		← 剪定				
					← 花穂整形		← ジベ処理 (2回)		← 摘粒		← 摘粒 袋かけ		※ 6～7月は作業が集中する。				

2. 特徴

- (1) 皮ごと食べられる種なしぶどうとして、需要が多く、収益性が高い。
- (2) 短梢剪定・平行整枝栽培によって、枝への着雪が軽減され、雪降ろしが楽である。
- (3) 棚・雨よけ施設を新設すると投資額が大きくなるが、既存のパイプハウス等にも導入できる。水稻育苗ハウス内で育苗とぶどう栽培の両立も可能。

3. 栽培のポイント

- (1) 排水がよく、肥沃な場所で、かん水できる場所が良い。
※ ハウス等の形状によって、苗木を植える場所や植栽間隔、苗木本数が決まるため、苗木を注文する以前に、詳細な計画づくりが必要。
- (2) 病害に弱いため、施設栽培（雨よけ栽培等）が望ましい。
※ 年間の病虫害防除（農薬散布）回数は、施設栽培でも7～8回程度必要。



育苗ハウス等を活用した導入例（5.4×10.0mハウスの場合）
※苗木植付け場所（2本植え）と必要資材の追加位置を示す。樹の育成完了は植付け5年目を見込む





1. 栽培暦

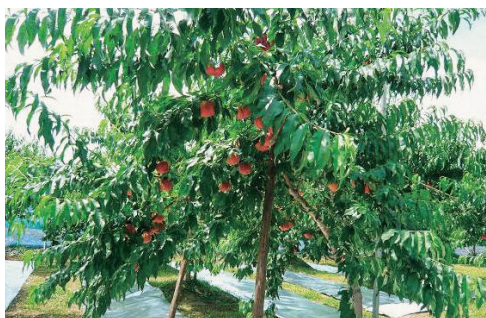
月	3			4			5			6			7			8			9		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	←→ 休眠期剪定			←→ 摘らい・摘花			←→ 摘果・新梢管理			←→ 修正摘果・着色管理			←→ 収穫			←→ 秋季剪定					

2. 特徴

- (1) 植付け3年目から収穫が可能で、需要が多く収益性が高い。
植え付け5～6年目頃から収穫量が多くなり、15年を過ぎると改植が必要。
- (2) 収穫期頃の天候の影響を受けやすく、作柄が不安定。
- (3) 栽培適地を選び、樹を育てるのはやや難しいが、摘らい・摘花や収穫以外の作業はあまり時間がかからない。

3. 栽培のポイント

- (1) 栽培に適した場所（風当たりが弱く、排水がよく、肥沃な場所）を選ぶ。 植え付け前に、排水対策（暗渠・明渠等）、土づくり、防風網の設置を行う。
 - ① 風当たりが強い平場の水田転作地、河川近くの湿った風が当たりやすい場所は、難防除病害であるせん孔細菌病の感染が多く、栽培には向かない。
 - ② 苗木定植は4月上～中旬頃がよい。苗木を植える前年のうちに、排水対策、土づくり、防風網の支柱設置を済ませておく。
 - ③ 苗木は秋季に注文し、苗木を結束する支柱も準備しておく。苗木が秋～冬季に届く場合は、雪害、野ねずみの被害を受けないようにして仮植しておく。
- (2) 8月上～下旬頃に収穫期を迎える「あかつき」、「まどか」等の中生種を中心に、栽培しやすい品種導入が望ましい。
 - ① 花粉が多く自家受粉する品種と、花粉を持たず受粉樹が必要な品種がある。
 - ② 品種数が多いため、特性をよく調べたうえで品種選定を行う。
 - ③ 一品種当たりの収穫期間は1週間程度であるため、熟期がなるべく重複しない品種を組み合わせる。
 - ④ 苗木の質が定植後の生育に大きく影響するため、充実した苗木を確保する。



えだまめ

1. 栽培暦

月 旬	5			6			7			8			9			10
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
げんき娘	●						☆☆				□□□□					
	5/上										7/下~8/上					
湯あがり娘		●					☆☆☆				□□□□					
		5/中									8/上~中					
ゆかた娘			●				☆☆☆				□□□□					
			5/下								8/下~9/上					
雪音				●			☆☆				□□□□					
				6/上							9/上~中					
味ゆたか					●		☆☆				□□□□					
					6/中						9/中~下					
秘伝						●	☆☆				□□□□					
						6/中~下					9/下~10/上					

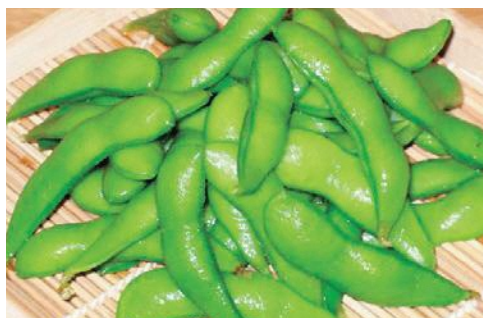
●: 播種 ☆: 開花 □: 収穫

2. 特徴

- (1) 山形県の夏の味覚として人気のある品目である。
- (2) 品種の組み合わせによって、7月下旬~10月上旬にかけて長期継続出荷が可能である。
- (3) 稲作との作業競合が比較的に少ないため、導入しやすい品目である。
- (4) 播種から収穫・選別まで機械化体系による作業が可能である（選別調整作業委託可）。

3. 栽培のポイント

- (1) 湿害に弱いため排水の良いほ場を選定し、排水対策をしっかりと行う。
- (2) 品種別の適正な播種時期、栽植密度、施肥量を厳守する。
- (3) 極早生品種は、草丈が低いため、培土は軽めに行う。
- (4) 商品化率を高めるため、開花の前後に防除を行い虫害を防ぐ。
- (5) 収穫適期が短いので、労働力に応じて作型を分散させる。
- (6) 連作によって、収量が低下するため、輪作体系を取ることが重要である。



きゅうり (夏秋栽培)

1. 栽培暦

月	5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業				○ 定植			■ 収穫								
				○ 定植			■ 収穫								

2. 特徴

- (1) 稲作との作業競合が少ないため複合品目として、導入しやすい。
- (2) 定植時期を分散化することで、9月下旬まで長期継続出荷が可能である。
- (3) 管理作業に手間は要するが、他産地の面積が減少しているため、価格が安定しており、確実に収入につながる品目である。

3. 栽培のポイント

- (1) 浅根性であり、滞水すると酸素が欠乏して生育不良となるため、排水対策が必要である。
- (2) 強風で果実に傷がつくため、風当たりが強い場所では防風ネットを設置する。
- (3) 定植時の土壤水分の確保、定期的なかん水、追肥が必要である。
- (4) 地際から30～40cmには着果させず、生育前半は樹作りに重点を置く。
- (5) 主枝（親づる）の摘心が遅れると、アーチパイプの内部の採光性が悪くなるので、摘心はアーチパイプの肩付近で行う。
- (6) 収穫開始と同時に古い葉の除去、不良果の摘果を行う。
- (7) 褐斑病、べと病、炭そ病などの病害が発生するため、予防防除、初期防除を徹底する。



飯豊で幸せになる条例

条例期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日

住宅取得・結婚・出産・入学などの人生の転換期において奨励措置を行うことにより、「住民主体のまちづくり」を実践する原動力の創出を図り、「ふるさといいで」の誇りにつながるまちづくり、誰もが笑顔で幸せに暮らせるまちづくりを推進します。

住宅取得奨励

町内への定住の意思を有して住宅を新築または購入された場合に奨励金を贈呈します。



奨励金	住宅新築・購入に対して（1世帯1回限り）	30万円
加算措置	Iターン世帯・Uターン世帯・新規就農林世帯のいずれか	30万円
	町内施工業者による新築施工	30万円
	三世帯同居・新婚世帯・子育て世帯のいずれか	10万円
	町内施工業者による飯豊型エコハウス新築	30万円
	空き家購入	10万円

賃貸物件居住奨励

定住の意思を有して賃貸住宅へ入居した場合、奨励金を贈呈します。



対象世帯	子育て世帯、新婚世帯、町内に勤務する40歳以下の就業世帯
奨励金	1か月あたり1万円（または賃料のいずれか低い方）を最長24か月
要件	*令和3年3月1日以降に新規に入居した場合を対象とします。その場合でも、町内賃貸住宅からの転居する場合は対象となりません。 *県や他団体による補助金との併用はできません

ときめき結婚祝



町内にお住まいの方が結婚し、夫婦ともに町に住み続ける場合に祝い品を贈呈します。

祝い品…商品券3万円分

すこやか出産祝



町内にお住まいの方が出産された場合、祝い品および祝い金を贈呈します。

祝い品…商品券5万円分
祝い金…5万円

めざみっ子入学祝・卒業祝



町内にお住まいで、小・中学校に入学、または中学校を卒業するお子さんを持つ保護者に祝い品を贈呈します。

祝い品…商品券1万円分

Iターン・Uターン奨励



町内への定住の意思を持ってIターン・Uターンした子育て世帯または新婚世帯に対して奨励品を贈呈します。

奨励品…商品券10万円分

●関連する施策●

住宅取得応援！

【関連する支援】

- 新規就農促進対策事業
- 住宅建設資金利子補給制度
- 木材製品利用住宅建築奨励助成金交付事業
- 県産認証材利用助成金交付事業
- 空き家等情報活用事業

出産・子育て応援！

【関連する支援】

- 子育て支援医療（18歳まで医療費無料、入院時の食事負担金支給）
- 保育料の軽減（第3子以降無料 他）
- 特別保育実施（産休明け保育など）
- 放課後児童クラブの実施
- ファミリーサポートセンター、こどもみらい館（子育て支援センター）の運営
- 妊婦健診助成
 - 幼稚園、児童センターへの給食提供
- ブックスタート事業
 - 出産育児一時金42万円給付（国保）

※飯豊で幸せになる条例で交付される奨励金は、所得税・町県民税の課税対象となりますので、確定申告が必要となる場合があります。詳しくは下記にお問い合わせください。

役場税務会計課税務室
☎0238-87-0513

●奨励の対象要件、申請手続き等の詳細は飯豊町役場企画課総合政策室までお問合せください。

飯豊町役場企画課総合政策室

☎0238-87-0521



☆補助金情報

事業名・補助名	種類	事業・補助内容	補助額	備考
家賃補助	町費	独立就農後または農業研修中に町内の賃貸アパート等に居住している場合の家賃補助。	年間自己負担額の1/2または24万円のいずれか低い額。(3年間)	・研修生とは、新規就農者育成総合対策(就農準備資金)を活用して町内の農家で研修する者のこと。
新規就農者支援事業	町費	【農機具購入補助】 農機具、農業用施設等を導入する際の補助金。 【土地改良費補助】 畦畔除去や砂利取りなどの軽微な農地整備をする際の補助金。	事業費の1/3または10万円のいずれか低い額。(3回まで)	・農機具購入補助については、1ターナーに限り、軽トラック及び除雪機を補助対象としています。
山形県元気な地域農業担い手育成支援事業	町費 県費	新規就農後10年以内かつ販売金額1,000万円未満の農業者が機械・施設等を導入する際の補助金。	事業費の1/2 事業費上限200万円	
新規就農者育成総合対策(就農準備資金)	国費	就農前の研修期間の所得を確保するための資金。	年間最大150万円(最長2年間)	
新規就農者育成総合対策(経営開始資金)	国費	独立就農直後の所得を確保するための資金。	年間最大150万円(最長3年間)	・夫婦で就農する場合は225万円。
新規就農者育成総合対策(経営発展事業)	県費 国費	独立就農後1年目の新規就農者が機械・施設等を導入する際の補助金。	事業費の3/4 事業費上限1,000万円	新規就農者育成総合対策(経営開始資金)を受給する者は、事業費上限500万円。
農地利用効率化等支援事業	国費	農業用機械や施設等を導入する際の補助金。	事業費の3/10以内 補助上限300万円 ※通常タイプの場合	
担い手確保・経営強化支援事業	国費	農業用機械や施設等を導入する際の補助金。	事業費の1/2以内 補助上限 個人1,500万円 法人3,000万円	

【注意事項】

- ・上記の補助金は申請すれば必ず受けられるものではありません。
- ・上記の補助金には細かい要件等がありますので、詳しくは担当者までお問い合わせください。
- ・事業内容等が変更になる場合もありますので、申請を検討の方は担当者にお問い合わせください。

目指した農業経営を確実につかむために！

～～ 就農までのプロセス。ポイントをおさえて納得のいく決断と実践を ～～

I 就農までの道のり

農業参入の動機

ここがスタートです。

⇒ 農業参入を目指した動機や目的は何ですか。

先々、ぶれることもあるかと思えます。その時、そのぶれたことが受け入れられるかという自問自答をすることが必要となってくるからです。

知 識

⇒ 様々な情報のある中で、何が正確な情報かを判断したり、得た情報を理解するためにも**最低限の基礎知識**を持ちましょう。

- 1 新規就農・参入の現状と課題
- 2 農業という仕事
- 3 有機農業を志向するときはその現状と有機農業が可能な場所なのかどうかなど、有機農業全般に関する知識
- 4 各種補助制度（国・県・市町村）など
- 5 移住について大事なこと

情報収集・相談

⇒ 情報収集・相談のポイント

- 1 どのような情報が欲しいのかはっきりさせる。
- 2 集まった情報を整理する。
- 3 疑問点・知りたいことを洗い出す。
- 4 就農・参入相談やネットなどで得た情報の裏付けを取り、疑問点や知りたいことを質問する。
- 5 4についてセカンドオピニオンを求める。
農業は地域によっても営農スタイルや相談された側の人間の価値観によってもアドバイスに差がでます。知りたい情報を客観的事実として知るためにセカンドオピニオンは大切です。
- 6 ここまでで、この先進むのか、止めるのかをまず判断する。

方針の決定

⇒ 今までの情報をもとにどのように就農・参入するか変更可能な意思決定をする。

就農活動・参入活動

⇒ 「聞いていたことと話が違う。」 「こんなはずじゃなかった。」 ということはよくあることです。

就農する側、受入側の両方の問題があります。

農業体験や現地視察などを行い、納得のいくまで話を聞き、進める。

【農業体験・参入活動のポイント】

- 1 客観的事実なのか、相手の主観が入った事実なのかを判断する。
- 2 それらの事実ときちんと向き合う。(自分にとって許容できることなのか)
- 3 「～するとこうなる。」という相手側の個別の課題や問題点に入り込まない。
- 4 言葉の定義を共通のものとしておく。

農業という仕事はその地方独特の文化や生活習慣によって左右されるところがあります。一つの事象において情報発信者の感覚と受け取る側の感覚が違ふことが多々あります。大事なのは客観的事実です。数値化できるものは全て数値化するぐらいのほうが判断しやすいです。

【視察のポイント】

- ① 近隣の自然環境（風の強弱、自然災害の有無など）
- ② 立地（接道、水利、土質、栽培適性作目など）
- ③ 地域特性（文化、生活、住居、雇用など）
- ④ 周辺農家（年齢、作目など周辺農家の状況など）
- ⑤ 視察先の有形資産と無形資産やバックグラウンド。
- ⑥ 地方自治体の考え方や地域農業の特性と雰囲気。
- ⑦ 視察は1回ではなく、時期を変えて行うのが良い。

【短期体験のすすめ】

- ・ 体験を通して、この仕事をやり続けられるかどうかの判断ができる。
- ・ 農家の常識だからと言ってあえて言わないことも多いので体験の中で「なぜそうなのか」などを徹底的に聞く。
- ・ 研修を考えている場合、研修内容や独立後のフォローなどの確認もできる。
- ・ 人間関係、地域での評判などの情報も得られる。

就農のイメージづくり

ポイント

- 1 独立就農の場合の営農計画を作る。
 - ・ 栽培スケジュール、労働時間、資金繰りなども合わせたもの。
- 2 地域での人間関係など実際の生活のイメージ（教育・医療なども含めて）。
- 3 J A、販売先とのかわり。
- 4 現地視察やセカンドオピニオンを経て最終の意思決定へ進む。

最終意思決定に進む前にもう一度考える

- 1 農業参入への動機
消去法で農業を選んだのではなく、目的があって農業を選んでいるか
- 2 熱意と情熱
熱意と情熱をもって農業に取り組めるか
- 3 農業への参入リスク
自然などのリスクを十分理解しているか
- 4 家族などの協力
家族などの理解は得られているか
- 5 資金
当面の生活資金等はあるか
- 6 地域との人間関係
地域住民との人間関係を築いていけるか
- 7 自分の思う描く農業
どこで何を作り、どのように販売していくか。どのように働くかなど

Ⅱ 就 農

【人材育成の3条件】

- | | | |
|---|---|---------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 意欲があり、志・意識の高い希望者である。2 インテリジェンスの高い指導者がいる。3 指導ツールと指導機会と場所がある。 | } | 農業研修生に置き換え研修を実のあるものにするために |
|---|---|---------------------------|

農業を学ぶために必要な3要素

- 1 意欲があり、志・意識の高い就農希望者である。
 - ・意欲があり、謙虚である。
 - ・基本と基礎をしっかり学ぶ姿勢がある。
 - ・多くのことに気づくことができる。
 - ・観て、聴いて、感じて、理由を理解して、本質を知るようにすること。
 - ・根本原因を究明できる。
 - ・できる限り自分で調べられる。
 - ・広い視点を持てる。
- 2 自分のインテリジェンスを高めることができる。
 - ・起こった事象の根本原因を究明できるようになる。
 - ・状況認識と判断の基準を明確にできるようになる。

- ・ 行動指針・優先順位を明確にできる。(その根拠を含めて)
 - ・ 起こった事象・作業の理由などを説明できるようになる。
 - ・ 指導内容の重要性を理解できるようになる。
 - ・ 成果(結果)だけに注目しないようにする。
 - ・ 自分の本当の満足度を満たしているかを問いかける。
(本当の満足=受け手側の気持ちよさではない)
 - ・ 自己啓発を促す。(先入観や固定観念の打破)
 - ・ 相手を理解する。
 - ・ 基本と基礎から応用のコツとポイントを知る。
- 3 学習ツールと学習機会と場所、テーマを自分で設定できる
- ・ 学習のポイントが明確になっているかをいつも確認する。
 - ・ ここぞという場面の体験をする。経験すべき事柄、場面であると理解する。
 - ・ 農業に関連した様々な経験に挑戦する。
 - ・ その経験が将来に生きると信じる。
 - ・ ある意味気づくことがすべてのスタート(学習とは気づき)。
 - ・ 教わる側がセルフチェックできるもの、思考を整理整頓できるものを用意する。
 - ・ どんな小さな作業でもテーマが設定されていなければ自分で設定する。

農業者として身に着きたい意識

- ① ビジネスなどにおける一般的な概念を農業バージョンへ意識変換する。
- ② 観察。違いに気づく。常に違い探しをする。
- ③ 「自分はどう思ったか」をはっきりさせる。
- ④ 根本的な原因を究明する。
- ⑤ 今、何が必要かというポイントをつかむ。
- ⑥ その時しか起こらないことを見逃さない。
- ⑦ どういう視点を持つのか理解する。
- ⑧ 全体の流れをイメージ化する。
- ⑨ うまくいかない時は、まず原点に戻る。
- ⑩ 五感を鍛えることと客観を一致させられるようにする。
- ⑪ 「同じ」という状況はないということを理解する。
- ⑫ あるべき姿とギャップを埋めていく。
- ⑬ きちんと理由を知る。自分勝手に解釈しない。
- ⑭ 情報過多に陥らない。
- ⑮ 農業は基本アナログの世界。デジタルは手段として使う。
- ⑯ 自分で調べることから始める。
- ⑰ 一人でやることをイメージする。
- ⑱ 作業の目的は何かをいつも考える。

研修内容OJTとOFFJT

【研修すべき内容（農業経営に必要な基礎知識）】

- ① 営農・栽培知識
- ② 栽培技術
- ③ 農業経営
- ④ 農業という世界
- ⑤ 農業思考

【特に大事にするところ】

- ① 栽培基礎技術の習得。
- ② 作業のコツとポイント。
- ③ 仕組み（準備～栽培～販売という一連の流れ）。
- ④ 点を線でつなげる。
- ⑤ いろいろな要素が組み合わさって結果が出るので、一つ一つの要素を学ぶ。
- ⑥ 自己の適正な能力と経営における規模を見極められるようにする。
- ⑦ 立地の重要性を学ぶ。
- ⑧ 計画性の重要性。
- ⑨ リスクマネジメント。

Ⅲ 営農・経営の準備と開始

農業経営を始めるにあたって大事になるのは事業計画です。

事業計画

⇒ 経験に裏打ちされた完成度高い計画書を作る。（1年目から5か年計画）計画内容が単純化・標準化・平準化されたもので作業が見える化された計画書を作成する。

- ① 販売計画（いつ・何を・どのくらい・どこへ）
- ② 栽培（農地・作目・品種）計画
- ③ 設備（施設・機械）
- ④ 作業工程計画（作型・作業スケジュール）
- ⑤ 資金計画（生活・運転資金・設備投資）
- ⑥ 収支計画（材料費15%、労務費25%、製造費5%、販売管理費25%を目安）
- ⑦ 認定新規就農者になる。
 - ・認定新規就農者になるための要件を満たす。
 - ・就農計画の作成→事業計画から就農計画に落とし込む。

具体的な準備

- ① 農地 ② ほ場づくり ③ 自動車 ④ 農機具 ⑤ 施設、設備
- ⑥ 作業小屋 ⑦ 種苗・肥料・諸材料の仕入れ業者 ⑧ 生活拠点

仕組みづくり

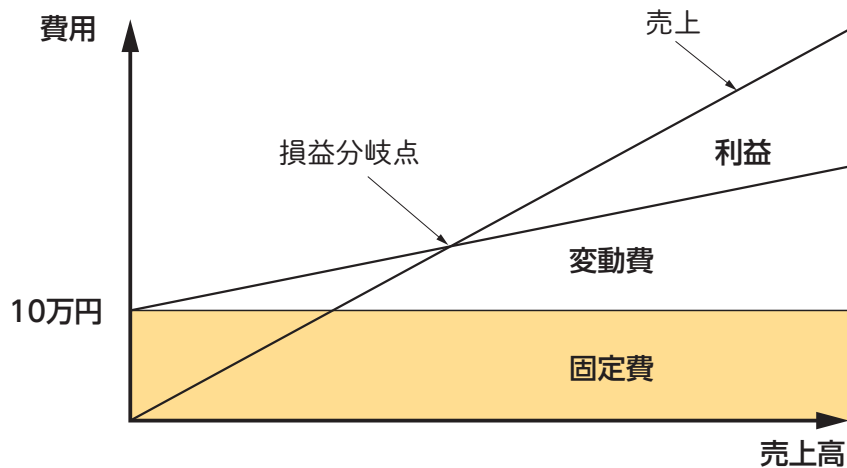
⇒ 営農・経営を軌道に乗せ、スムーズに運営させるための仕組み作り

- ① 売る仕組み → ファンを作る。ほしいと思われるものを作る。
- ② 作る仕組み → 産物が生産される工程をしっかりと作る。
- ③ 管理する仕組み → 誰が何をするのか
- ④ 経営を安定させる仕組み → 3つの取組み
 - コストを下げる ●収量を上げる ●単価を上げる

損益分岐点

⇒ 損益分岐点とは売上と総費用の額が一致し、利益が「0」になるときの売上高をいう。損益分岐売上高以上の売り上げの時に利益が出る。

$$\text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} \div \{1 - (\text{変動費} \div \text{売上高})\}$$



売上高すべてが利益というわけではなく、売上高から種苗費や燃料費、人件費や賃借料などの経費を引いて利益を出していく。

費用には売上に比例して増加する変動費と売上に関係なく発生する固定費があります。

勘定科目

		勘定科目	金額
収 入	売 上	売上 米	
		売上 トマト	
		売上 アスパラガス	
		その他売上	
		雑収入（補助金など）	
		合 計	
支 出	変 動 費	種苗費	
		肥料費	
		農薬費	
		燃料費	
		諸材料費	
		出荷資材費	
		荷造運賃手数料	
		雇人費	
	小 計		
	固 定 費	雇人費	
		水道光熱費	
		修繕費	
		減価償却費	
		地代賃借料	
		共済掛金	
		広告宣伝費	
		旅費交通費	
		事務費・通信費	
		租税公課	
		支払利息	
	小 計		

農業経営基礎知識

農業思考	営農・栽培知識	栽培技術	農業経営	業界知識
自然 天候リスク 自然界との共生関係	農地環境 適地適作・水利・周囲の環境	作物別標準栽培方法 栽培する作物の標準栽培技術の習得	売上・コスト・キャッシュフロー・PLとBS 売上・コスト（変動費と固定費）現金の流れ	農業の現状 人口・政策・世界の流れ
作物栽培 観察力を磨く 同条件はないということを知る	気象 天気図・統計資料・地形特性 季節特性	栽培地域特性 地域による栽培技術特性を学ぶ	ポジショニング 業界においてどのポジショニングに身を置くのか	農業の形態 個人・法人・グループ形成 六次化・ライフスタイル
自分の目指す栽培技術 一貫してやりきることの重要性 やり続けられる体力と能力	土壌 土性・土壌の化学性、物理性（PH、EC、CEC）・土壌分析・根と土・有機物	品種特性 品種の特性を学ぶ	資金 制度資金 補助金 保険	地域と組織 地域とのつながり JA 生産部会
自分の目指す農業経営 自分の目指す農業経営を確立しムリ・ムダ・ムラを極力出さない	肥料 肥料の種類と特性・肥料の3要素・微量要素・土壌改良材・土壌分析・施肥設計・葉面散布	記録 記録を取ることの重要性和その解析力と利用の仕方を学び、知る	農業簿記 複式簿記・単式簿記・青色申告・白色申告	農業の社会的役割と責任 農業の社会的な役割と責任 環境問題 GAP
五感 視・聴・嗅(きゆう)・味・触の五つの感覚を磨ぎます	栄養生理 光合成・栄養成長、生殖成長・水と栄養・養分と吸収・酵素	環境整備 ほ場の環境整備ができるようにする	ITスキル パソコンの活用 インターネットの活用	六次産業・他産業との連携 農商工連携・食産業ビジネス マーケティング
気付き 違いに気付く事が重要 作物の立場になって考えてみる	微生物 微生物の分類と種類と働き・ウイルス	アグリテックについて スマート農業・IoT・ビッグデータ・環境制御など	労働環境 環境整備・就業規則 整理、整頓、清潔、清掃	国際情勢 世界の食料事情・食料戦略 各国の農業協定
感性 五感を通して自分の感性を磨く アナログとデジタル	農薬と植物病理 病原体・病気のメカニズム・害虫の分類と種類・害虫の発生と防除・農薬の種類と特性・殺虫剤・殺菌剤・農薬の成分	農法 農法についての理解	事業(経営・就農)計画 計画書の書き方・予算スケジュール オペレーション(作業の行程) 書類作成	農業の多面的機能 農業という業界の幅・農業の多面的機能
	施設園芸と資材 施設の種類の、特性・施設園芸の特性・営農に必要な資材		販売計画・管理 販売先と販売方法・販売戦略	SDGsについて
	農業機械 安全・機械の種類・機械の点検、整備・メンテナンス		マネージメント・マーケティング 「実践マネージメント」参照	

☆よくあるご質問

問1	女性でも農業を始めることはできますか？
	できます。ただし、力作業や体力が必要となる作業が多いため、男性よりもハードルが高いかもしれません。また、子育てとの両立などが難しくなるため、男性のサポートや複数人で始めるなどの工夫が必要になると思います。
問2	山形で農業を始めるメリットはありますか？
	水稻、畜産、野菜、果樹、花卉など、ほぼすべての作物を栽培することができ、作物によっては気候の寒暖差がおいしい味につながるものも多くあります。また、首都圏と比べると生活費が安く済んだり、四季折々の風景を楽しむことができます。
問3	農業を始める年齢制限はありますか？
	ありません。ただし、農業経営を確立するために5年程度かかりますし、国や県からの就農支援（補助金等）を受ける場合は、50歳未満という制限があるため、早めの就農がおすすめです。
問4	農地はどうやって見つけるのでしょうか？
	就農前は農業委員会で紹介します。就農後に農地を拡大したい場合には地域の農家さんから紹介してもらったり、逆に、離農する農家さんから作付けを依頼される場合もあります。そのためには、常日頃から地域の活動に参加し、コミュニケーションを取っておくことが大切です。
問5	移住で農業を始める場合、住む場所を紹介していただけるのでしょうか？
	紹介いたします。飯豊町では移住担当部署と連携して新規就農支援・対策に取り組んでおり、民間賃貸アパートや公営住宅の紹介をはじめ、空き家バンクに登録されている空き家の紹介も行っています。
問6	車の運転免許は必要ですか？そのほかに必要な資格はありますか？
	必要です。農作業では軽トラックを使用しますし、飯豊町は公共交通機関がないため日用品の買い物など生活するうえでも車移動が中心になりますので、普通自動車運転免許は必須になります。また、農作業において大型機械や特殊機械を使用する場合がありますので、特殊免許やけん引免許、フォークリフトの作業免許等が必要になる場合もあります。

問7	農業を始めるにはどのくらいの費用がかかりますか？
	生活費用として500万円は用意していたほうが良いです。営農資金（ハウス建設や機械購入など）については、長期低利子の農業制度資金を活用することができます。
問8	農業体験は何ができますか？
	水稻、畜産（肥育、繁殖、酪農）、施設野菜、露地野菜、果樹、花卉などほぼすべての品目を体験していただくことができます。また、ご希望によっては町内の住居（アパート等）や食料品・日用品の買い物場所、公共機関の案内なども行っています。
問9	オンラインで相談することはできますか？
	できます。事前にご連絡をいただければ日程を調整してご対応させていただきます。オンラインだけでなく、メールや電話などご都合の良い方法で相談に対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。
問10	雇用就農した場合、休みはあるのでしょうか？
	休みはありますが、雇用先との相談が必要になってくると思います。雇用就農に限らず、農業を仕事にする場合は農繁期は休みが少なく、農閑期は休みが多いなど、労働時間が不規則になることがあります。
問11	就農場所と居住地は同じ町じゃなくても大丈夫でしょうか？
	大丈夫です。ただし、就農場所と居住地が違っていると自治体の支援（補助金等）が受けられない可能性が高いので、おすすめしません。また、移動に時間がかかりますので、作物の管理が大変になります。
問12	就農後に農業を学ぶ機会がありますか？
	あります。山形県では年間を通して様々な研修会を開催しています。そのなかには新規就農者向けのものもあり、農業経営の勉強だけでなく、仲間づくりをすることもできます。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

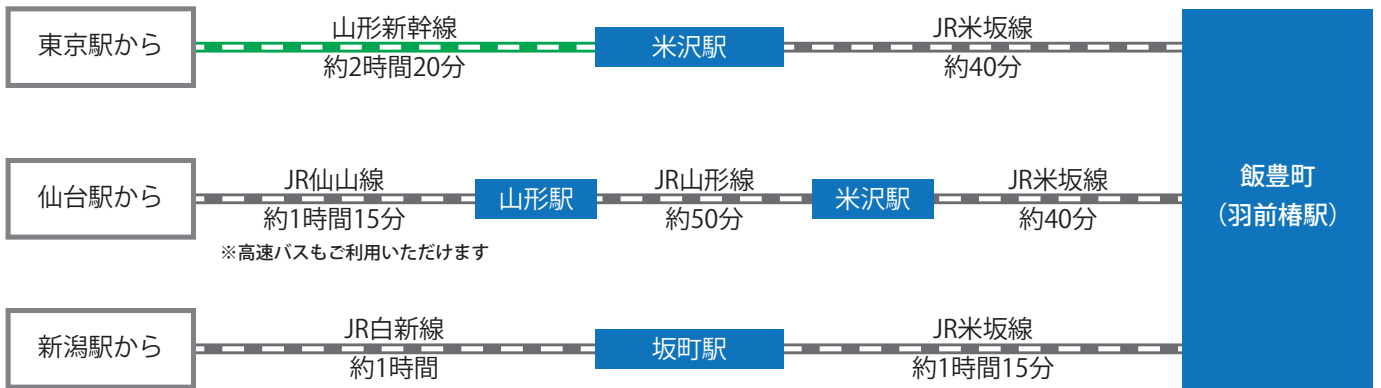
ACCESS

山形県飯豊町へのアクセス

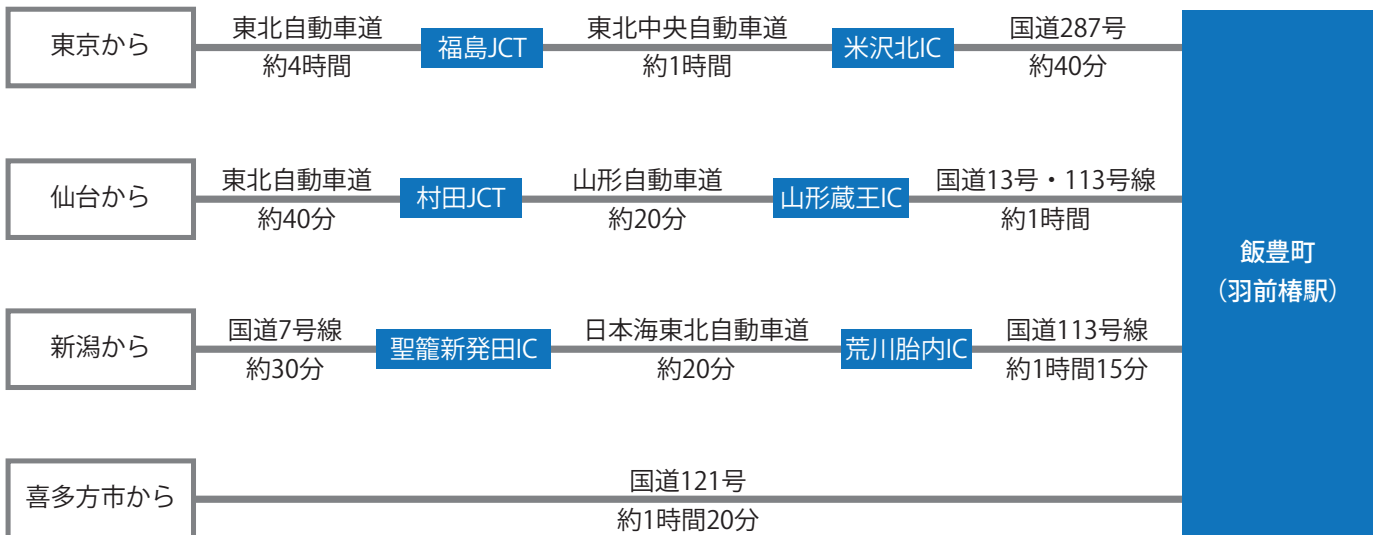
- 新幹線
- JR
- 国道
- 自動車道



鉄道でお越しの方



お車でお越しの方



飛行機でお越しの方

